

3) 主なる海藻の種類と季節的消長

アジモヤそれに着生する海藻の他に比較的大型の海藻として、ヒトエグサ、オキナワモヅク、カイメンソウ、イトアミジやイソスギナが普通にみられる。

潮干帯では12～3月に出現し順次ヒトエグサ、イトアミジ、オキナワモ^{ズク}、イソスギナと季節的に移り変っている。

また、礁湖の流れが早いところではカイメンソウが周年にわたって多くみられる。

5 増殖対象生物

以上の調査から本漁場における望ましい増殖対象生物はオキナワモヅクとシラヒゲウニであると考えられた。

1) オキナワモヅク

目下、需要が不安定な面はあるが、本県沿岸漁業者にとって^主必要な漁業対象種である。本海域では生育量が少ないため、^主生育はそれほど多くない。本海域におけるモヅクの生育域はリュウキュウスガモーベニアマモ群落の生育帯からそれより沖側のboat channelに至る範囲である(参照図-4)。水路を含む広い礁湖にはモヅクの生育は全くみられない。礁湖にモヅクの生育がみられないのは水の流動、栄養塩、食害等が考えられるが、特に海水の流動がもっとも大きく影響しているように思われる。

オキナワモヅクの生産量と生産額

年	生産量(ト)	生産額(千円)
1969	436	6,315
1970	2,141	69,915
1971	2,190	146,089
1972	1,138	42,808
1973	1,022	

資料：「沖縄の水産業」より

2) シラヒゲウニ

A 生息域

シラヒゲウニ (Tripneustes gratilla) の生息域は図-6のとおりである。アジモ帯の陸側半分と海岸線に近い砂質帯を除いて、ほとんど全域に生息している。しかし水路や礁原にはみられない。

生息域の上限に相当するモ場は、潮干帯に位置するが、浅いタイドプールになっていてウニが生息できる条件下にある。このモ場では冬期には多くの個体が見られるが、夏には著しく少なくなる。この主原因については、

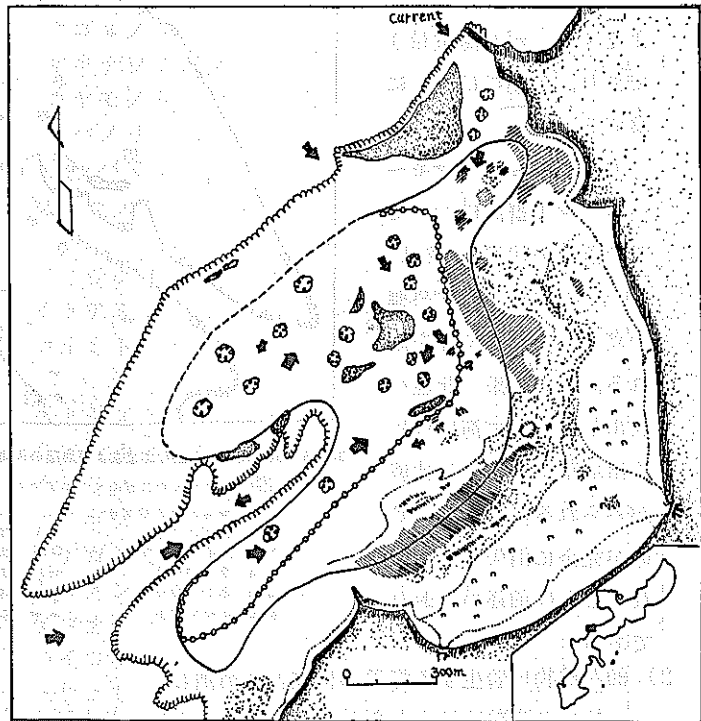


図-6 屋嘉田潟原におけるシラヒゲウニの生息域

— 冬期の生息上限域 — 夏期の生息上限域
 □ 大礫と粘板岩 ● アジモ揚 ⊙ サンゴ

水層 66-230
 藻層 66-230
 下に

冬期には昼間の干出は小さいので、索餌のため沖合側からモ場へ、また冬から夏にかけてはモ場から沖合側への移動による結果であることが確かめられている。結局、夏期と冬期の生息域の上限には図-6に示すような、わずかではあるが水平的なズレがみられ、本漁場における生息水深の下限については(-)5mと推定できる。

北方産のエゾバフンウニ *Strongylocentrotus intermedius* の生息水深の下限が(-)10~(-)35mであり(富士1962)、それにくらべるとシラヒゲウニのそれはかなり浅いことになる。

B 生息密度と生息量

図-6に示す生息域内で、ウニが比較的多く生息していることを確認してから、その場所では、できるだけ無作意になるように採取り(1m×1m)を行った。その結果を表-6に示した。

表-6 生息密度と殻径

調査年月日	区画 No.	個体数/m ²	殻平均 mm	殻径 mm	
				最小	最大
47. 8. 10	36	7	46	25	55
"	26	11	36	20	50
"	29	7	40	25	53
"	27	5	37	15	50
"	26	5	42	20	60
"	25	14	33	25	40
8. 11	32	4	41	27	81
"	24	14	29	16	47
10. 12	25	11	67	58	77
"	40	10	59	55	63
"	40	7	61	52	81
12. 7	23	5	52	28	72
12. 13	31	5	66	61	69
12. 22	31	5	62	57	71
48. 1. 31	18	7	67	62	73
"	38	5	67	63	71
2. 23	17	5	66	59	80
"	30	6	83	73	94

生息密度はウニが多いところで5~7個体/m²である。10個体/m²以上のところもあるが、このような場所は限られている。

この漁場全海域における平均生息密度を今仮に1個体/m²とすると、総生息個体数は1個体×1.04×10⁶m²≒10⁶個体、総重量にして100g×10⁶≒100トンと算定される。一方同漁場からのウニの生産(身重)は0.5トンを上まわることはない。(47年、沖縄県漁業の動き)。上記の生息総個体数からすれば、その生産はかなり低いと考えられる。

C 仔ウニが多くみられた場所

昭和47年8月の調査で殻径2cm内外の小形のウニが多くみられた。その場所は水路からboat channelよりの水域で、8月の最大干潮線に沿う一帯である。水路が深く入り込んでいゝるその先端部の南側の一帯、区画番号No.26および27区画にとくに多い(図-2参照)。